

快適職場のきっかけに

全建協連



6つのデザインが披露された

ユニフォームデザインプロジェクト 最優秀賞など6作品披露

全国建設業協同組合連合会（全建協連、青柳剛会長）は22日、東京モード学園（東京都新宿区）の学生と連携して実施している「建設業で働く女性のためのユニフォームデザインプロジェクト」の入賞

プロジェクトは「女性のチカラで快適職場」をコンセプトに掲げ、建設業全体の働き方改革に貢献するのが狙い。かつて男性が長時間働くことが前提で、女性が門前払いされがちだった状況を刷新し、誰もが生き生きと働ける環境づくりを目指す。

冒頭、青柳会長は「ユニホ

働き方改革とWLBを考える

作品発表会とデモンストラーションを同学園のコクーンホールで開いた。2022年10月の最終審査で選ばれた最優秀賞など6作品が披露され、8カ月間にわたるプロジェクトの集大成として、建設業の魅力を発信した。

5年ぶりの再スタートとなったユニフォームデザインプロジェクトは「女性のチカラで快適職場」をコンセプトに掲げ、建設業全体の働き方改革に貢献するのが狙い。かつて男性が長時間働くことが前提で、女性が門前払いされがちだった状況を刷新し、誰もが生き生きと働ける環境づくりを目指す。

いさつした。審査委員長の古谷誠章早大理工学術院教授が発表会への期待を語り、小池百合子都知事の祝電が披露された。

清水政務官は、全国で機運を高めることの重要性にも触れつつ「女性が活躍しやすい環境をつくることで、業界全体の課題解決に工夫がなさ

れ、効率的で快適な職場環境の整備が進む。性別、世代を問わない魅力的な業界として担い手確保につながる」と期待を込めた。

発表会では、334点の中から選ばれた最優秀賞1点、優秀賞2点、入賞3点を披露した。試作品の製作はミドリ安全が手掛けた。

最優秀賞を受賞した田中アリスさん（ファッションデザイン学科2年）は、実際に建設業で働く友人の声として上がった「収納が少ない、スタイリッシュじゃない、ダサイ」という従来のユニホームに対する不満をスタイルアップするデザインに反映させるだけでなく、男女問わず着心地の良いユニセックスデザインとして形にした。

全建協連は広報戦略として発信の効果を高めるため、これまで目録のポスター発表などを丁寧の手掛けてきた。今回の作品発表会は第3弾の発信活動となる。

審査委員の浜田紗織ワーク・ライフバランス執行役員は「ユニホームという目に見えるもので多様性を提示することとは意義がある」と評した。

全建協連 女性用ユニホームデザイン

全国建設業協同組合連合会（全建協連、青柳剛会長）は「建設業で働く女性のためのユニホームデザインプロジェクト」の入賞作品発表会を22日に東京都新宿区の東京モード学園の校舎内で開いた。同校の学生がデザインし入賞した6作品をユニホームとして制作。ファッションショー形式でお披露目した。若い世代のみずみずしい感性で機能性だけでなくファッショ性に優れたユニホームをデザインしてもらい、情報発信することによって建設業で働く女性のモチベーションアップや業界の魅力向上につなげたい考えだ。

同プロジェクトは5年ぶりの開催。今回は女性技術者・技能

ファッションショーではモデルも学生が務めた



入賞6作品 ショー形式でお披露目



入賞作品をデザインした学生とモデルの集合写真

い』を加えた新4Kを積極的に広げていこうと思う」と語った。審査委員長を務めた建築家の古谷誠章氏は「最優秀賞の作品は男性が着ても映えるようなユニセックスのデザインだ。最近では男女の違いがありながらもそれを超えて共有できる価値が非常に重要になっている。そういったものを示唆した素晴らしい案が選ばれた」と述べた。

前回のプロジェクトでメンズ部門の最優秀賞を獲得した同校卒業生の森美哉子（エムシアパレル）さんが、入賞作品のデザインのポイントを紹介した。最優秀賞に輝いた田中アリスさん（ファッションデザイン学科2年）の作品は、ユニセックスのデザイン。実際に建設産業で働く人の意見を基に、ポケットを多用し収納力も確保した。田中さんをはじめ入賞者は自身のデザイン画が実際にユニホームとして仕上がったのを見て感動の声を上げた。

発表会には国土交通省の清水真人大臣政務官ら幹部、佐藤信秋参院議員、足立敏之参院議員、建設業界団体の幹部らが来賓として出席。学生から来賓に対して、建設業界に関する質問が飛び出る場面もあり、会場が大いに盛り上がった。

発表会の冒頭、青柳会長は「今日の発表会の様子をポスターにして、建設業の新3K（給与、休暇、希望）に『かっこい

入賞者に招待券

全建協連ユニホーム
デザインプロジェクト TGC実行委出席

全国建設業協同組合連合会（全建協連、青柳剛会長）が22日に東京都内で開いた「建設業で働く女性のため



入賞者にTGCの招待券を手渡す池田氏（手前右）

のユニホームデザインプロジェクト」の入賞作品発表会には、日本最大級のファッションイベント「東京ガ



記者会見する青柳会長（手前） 22日夕方、東京都新宿区の東京モード学園コクーンタワーで

ールズコレクション（TGC）」の実行委員会から池田友紀子チーフプロデューサーらが出席した。池田氏はプロジェクトを総評するとともに、「リアルクロ

ズ（日常的に着る服）のトレンドも見えてほしい」との思いから、入賞者に3月4日に東京都内で開かれるTGCの招待券を手渡した。

1面参照

池田氏は昨年建設業のユニホームデザインに関わった際、「以前はかわいさやデザイン性を重視してデザインを作っていたが、機能性や安全性、防寒や暑さ対策も非常に重要だと学んだ」と説明。入賞作品は「（機能性ととも）よくトレンドを押さえながら女性に着てもかわいいと素直に思えるデザインになって

いる」と評価した。

TGC実行委員会地方創生管掌の田嶋康弘氏は「建設業と女性の働き方にどうアプローチするかという視点で活動しているのは、意義のある非常に大切な取り組みだ」と語った。

発表会後に記者会見した青柳会長は、建設業のブランドینگ化で「ファッションの重要性を強調した。その上でTGCについて「ファッションだけでなく地方創生や産業をブランドینگ化する力がある」と指摘。「新型コロナウイルスの位置付けが2類相当から5類に移行した時、TGCのような業界とコラボレーションすることが建設業界にとって大事になる。今日はその背中を押す最初の一步だ」と持論を述べた。